

平成 29 年 2 月 16 日

第 16 回経済・財政一体改革推進委員会における当方意見

長野県飯田市長 牧野光朗

2 月 16 日(木)は平成 29 年第 1 回飯田市議会定例会の告示日にあたり、来年度当初予算の説明を主とする記者会見があることから欠席せざるを得ません。

これまでの当委員会の取組を振り返り、下記の通り意見を申し上げますので宜しくお願いします。

○成果と課題 ～財政健全化では一定の成果、経済再生は今後の課題～

内閣府の関係する皆様のご尽力により、全体として KPI による「見える化」と改革工程表による PDCA サイクルの運用については、浸透が図られてきていると捉えている。

但し、これまでも申し上げてきた通り、こうした傾向は財政健全化に関する分野に限られたものであり、経済再生に関する分野での展開の仕方は今後の大きな課題と考えている。

確かに社会保障や社会資本整備、あるいは教育研究分野などと異なり、マクロ的に地域経済の現状を「見える化」することは難しい部分もあるかも知れないが、こうした「見える化」は当該地域の産業界や行政、地域住民が産業構造の現状認識を共有し、これを将来に向けてどう変えていったらいいのか、といった産業振興の議論を展開していくための基礎となるものである。

飯田・南信州地域は、こうした「見える化」を「経済自立度」という独自指標で行い、毎年地元産業界と行政で議論しながら「地域経済活性化プログラム」を策定することで PDCA サイクルを回してきている。10 年以上のこうした積み重ねを通して航空宇宙や環境などの当地域にとっての次世代産業の育成を図ってきている。

もちろん、地域の産業づくりは地域毎オーダーメイドで考えていく部分もあるだろうが、こうした「ボトムアップの産業振興」を図る上で共通する処方箋を見出すことができれば、「経済再生と財政健全化の二兎を追う」ための道筋が見えてくると捉えている。今後「経済社会の活力 WG」で優良先進事例の調査分析を行いながらこうした道筋の追究を行っていきたいと考えている。

○ワイズ・スペンディング ～目指すはイノベーションを起こせる地域の創造～

地域における「工夫の改革」は始まったばかりであり、まだまだ工夫の余地はあるのではないかと捉えている。

ワイズ・スペンディングには、「財政の健全化に関わる支出の工夫」と「経済再生に関わる付加価値創造への投資」の両面があると捉えており、ワイズ・スペンディングが浸透した地域はイノベーションを起こせる地域になるのではないかと考えている。

イノベーションを起こせる地域というと、最先端の技術を扱う人材が集う学術研究都市をイメージするかもしれないが、そうした「一人による百歩」ばかりではなく「百人による一歩」の積み重ねが当該地域においてイノベーションを創発することに留意するべきである。

別紙は、現在進行形で取り組んでいる飯田市における「インバウンド農泊事業」の事例だが、PDCAにおけるDにおいて共創が機能することで、一つのプロジェクトを通して様々な課題への対応が期待されるものである。私は、地域におけるこうした取組も小さくとも確かなイノベーションの創発と捉えている。

今後「経済社会の活力 WG」において経済再生の議論を重ねる中で、ワイズ・スペンディングの更なる展開がイノベーションを起こせる地域の創造に繋がるような仕組みを見出していくことができれば、と考えている。

以 上